

# 水辺にいる鳥

## 木の上からダイビング

**ヤマセミ** ■ **留鳥**  
【カワセミ科】 ■ **全水系**  
岸田川 矢田川 円山川  
千種川 横保川 市川  
加古川 武庫川 猪名川



「ケッ・ケッ」と鳴きながら溪流沿いを飛びます。ハトより一回り大きく、白色に、黒い模様が入った鳥です。警戒心の強い鳥で、人の気配を感じるとすぐに飛び去ってしまうため、なかなか観察するチャンスはありません。

**カワセミ** ■ **留鳥**  
【カワセミ科】 ■ **全水系**  
水面すれすれを「ツィー」という鋭い声とともに飛びます。色鮮やかなコバルトブルーの背中にオレンジの腹、そして体と比べてアンバランスなまでに長く大きくくちばしを持つ美しい鳥です。



## 河原でエサ探し

**キセキレイ** ■ **留鳥**  
【セキレイ科】 ■ **全水系**  
頭から背中にかけての灰色と、胸から腹の黄色という色彩の取り合わせが美しい鳥です。山地の上流にすみ、「チチン・チチン」と鳴きながら波状に飛び、とまると尾を上下に振ります。



**セグロセキレイ** ■ **留鳥**  
【セキレイ科】 ■ **全水系**  
河原や川の近くの開けたところにすんでいる、白と黒のコントラストがはっきりした鳥です。とまっているときに尾を上下に振ります。



**イカルチドリ** ■ **留鳥**  
【チドリ科】 ■ **全水系**  
岸田川 円山川 竹田川  
千種川 横保川 夢前川 市川  
武庫川 朝石川 加古川 猪名川  
下流から中流にかけての河原で一年中見られます。体の色が河原の風景に溶け込んでカモフラージュされています。人が近づくと「ピッピッ」と鳴きながら飛び立ちます。



**カワラヒワ** ■ **留鳥**  
【アトリ科】 ■ **全水系**  
「キリリ・コロロ・キリコロロ」という鈴を転がすような声と、飛んでいる時に見える翼の黄色の模様が特徴です。植物食で、種子を主食としているため、河原の草地で群れていることがあります。



## ヨシ原で巣づくり

**オオヨシキリ** ■ **夏鳥**  
【ウグイス科】 ■ **全水系**  
岸田川 矢田川 円山川  
竹田川 千種川 夢前川  
市川 加古川 朝石川 武庫川  
県下各地の河川や池沼のヨシ原、また海岸や河口のヨシ原などの湿地に多い夏鳥です。さえずる時は高いところで大声を出すので、よく立ちます。「ギョギョシ・ギョギョシ・クワッ・グルグルルル」など大変やかましく鳴きます。



## 川底を歩いてエサ探し

**カワガラス** ■ **留鳥**  
【カワガラス科】 ■ **全水系**  
岸田川 矢田川 円山川  
竹田川 千種川 夢前川 市川  
横保川 武庫川 加古川 猪名川  
中流から上流の溪流で、川底を歩きながら水に潜り、石についている水生昆虫を捕まえるという、変わったエサ取りを行うことで知られています。全身がこげ茶色で尾が短く、水面付近を「ピッピッ」と鳴きながら飛びます。



## 水辺で魚とり

**アオサギ** ■ **留鳥**  
【サギ科】 ■ **全水系**  
サギの仲間では最大の鳥です。河川や水田・池沼・干潟にすんでいます。木の上に枯れ枝などで大きな皿型の巣をつくります。捕まえた魚は、上手にくわえ直して頭から飲み込みます。



**ゴイサギ** ■ **留鳥**  
【サギ科】 ■ **全水系**  
夜の空を「クワッ」と鳴きながら飛ぶため、「夜ガラス」とも呼ばれています。また、親鳥の頭には白い二本の飾り羽があります。幼鳥は褐色に黄白色の斑点があることから「ホシゴイ」とも呼ばれています。河川や池にやってきて魚を捕まえます。



## 水中を泳いでエサ探し

**カイツブリ** ■ **留鳥**  
【カイツブリ科】 ■ **全水系** ※三原川を除く  
平地の池や、流れの緩やかな川などで一年中見られます。人の近づく気配を察知すると素早く水中に潜ってしまいます。潜水が上手で、小魚などを捕まえて食べます。親鳥がひなを背中に乗せて泳いでいるところを見かけることもあります。



**カワアイサ** ■ **冬鳥**  
【カモ科】 ■ **加古川**  
冬鳥として河川や湖沼にやってきました。カワアイサは漢字で「川秋沙」と書きます。「秋沙」は「秋早（秋早くに来る）」が転じたとの説があります。いずれも潜水が得意で、水中で魚を捕らえます。



**ホシハジロ** ■ **冬鳥**  
【カモ科】 ■ **全水系**  
岸田川 横保川 市川  
加古川 朝石川 猪名川  
河口や池沼に冬鳥としてやってきます。海ガモの仲間であるため、河口付近で見られます。警戒心が強く、水面に浮かんで目を閉じ休んでいる時も人が近づくと遠ざかります。



**カワウ** ■ **留鳥**  
【ウ科】 ■ **全水系**  
岸田川 矢田川 円山川  
竹田川 夢前川 市川  
武庫川 猪名川 三原川  
木の上に集団で巣を作ります。先が曲がった長いくちばしをもつ黒い大きな水鳥です。水かきのついた足で潜水し、魚を上手に捕まえます。近年、数が増えています。



## 河口や干潟でエサ探し

**キアシシギ** ■ **旅鳥**  
【シギ科】 ■ **全水系**  
岸田川 横保川 加古川  
渡りの途中、春秋にやってくる旅鳥で、黄色の足が目立ちます。県内の海岸や河川の下流や中流でよくみられ「ビューイ・ビューイ」と鳴き、カニやゴカイを食べています。



**ユリカモメ** ■ **冬鳥**  
【カモメ科】 ■ **全水系**  
岸田川 千種川 横保川  
夢前川 市川 加古川  
朝石川 武庫川 猪名川  
冬鳥として県下の海岸にやってきましたが、季節が進むにつれ、河口から上流に向けて、その分布を広げていきます。4月下旬に北方へと出発するころには親鳥の頭が黒色になり、ユーモラスな姿になります。



**シロチドリ** ■ **留鳥**  
【チドリ科】 ■ **全水系**  
注目種  
横保川 武庫川 洲本川  
海岸・河口の砂地や干潟でみられ、ときには河原でも見られます。足が黒く胸の黒い帯が中央で切れている点で他のチドリと区別できます。



**夏鳥** 春に南方の越冬地から渡来して繁殖し、秋に再び越冬地へ去る鳥をいいます。  
**冬鳥** 秋に北方の繁殖地から渡来して越冬し、春に再び北方へ去る鳥をいいます。  
**旅鳥** 北方の繁殖地と南方の越冬地を往復する渡りの途中で春秋にだけ現われる鳥をいいます。  
**留鳥** 年間を通じて同一場所にとどまって生活する鳥をいいます。

## 兵庫県 県の鳥 コウノトリ【コウノトリ科】

コウノトリは「兵庫県鳥」です。1956年に特別天然記念物に指定されました。しかし、もともと日本にすんでいたコウノトリは絶滅してしまいました。生きものが絶滅に瀕する原因としては様々なものがありますが、コウノトリは農薬などの影響によって絶滅したといわれています。その後、旧ソビエト連邦より数回幼鳥を譲り受け、人工飼育による繁殖に成功しました。現在、「兵庫県立コウノトリの郷公園」で飼育されているコウノトリは100羽を越え、2005年度に野生復帰に向けて試験放鳥が行われました。絶滅に瀕している生きものたちが何故そうなったのか、今一度考えてみませんか。



# 川底にすむ昆虫と小動物

## トンボの幼虫

### ムカシトンボ 注目種 【ムカシトンボ科】

岸田川 矢田川 千早川  
加古川 篠保川

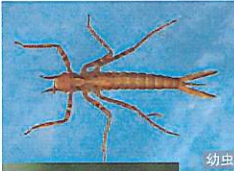
幼虫は水の冷たい源流の水中で5～8年間を過ごします。成虫は4月～6月頃みられます。昔(中生代)に栄えたトンボの一種で「生きてる化石」と呼ばれています。



### カワトンボ 岸田川 矢田川 岸田川 竹田川 篠保川 岸田川 夢前川 加古川 洲本川

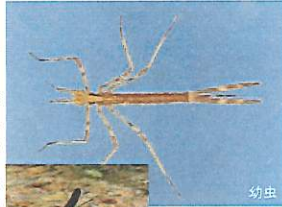
岸田川 矢田川 岸田川  
竹田川 篠保川 岸田川  
夢前川 加古川 洲本川

幼虫は上流から中流の流れの緩やかな河岸の植物や、淵やよどみで生活しています。成虫は4月～7月にみられ、羽化した場所です生活します。成虫、幼虫とも肉食で他の昆虫を食べます。



### ハグロトンボ 全水系 【カワトンボ科】

幼虫は中流から下流のヨシなどの植物の生えている川にすんでいます。幼虫は細長い形をしています。成虫は5月～9月頃まで見られます。アオハダトンボとよく似ていますが、羽の形は長細く、メスには羽の端の白い斑紋がありません。



### コオニヤンマ 全水系 【サナエトンボ科】

幼虫は中流から下流の広い範囲にすんでいます。幼虫は腹部が幅広くなっています。成虫は5月～9月に見られます。「ヤンマ」となっていますが、サナエトンボ類でその中では最大の種です。ヤンマ類とサナエトンボ類は休み方が違います。休むときヤンマ類はぶら下がりますが、サナエトンボ類は水平に止まります。



## ゲンジボタル ホタル科



**Cランク** (淡路島)  
全水系 ※雅名川を除く



ホタルは古くから初夏の風物詩として親しまれています。ホタルの仲間でもゲンジボタルが最も大きく、明るく光ります。点滅の間隔は同じゲンジボタルでもちがっていて、東日本では4秒に1回、西日本では2秒に1回、東西の境界あたりでは3秒に1回光ることが知られています。

### ホタルの見分け方

#### ゲンジボタル



#### ヘイケボタル



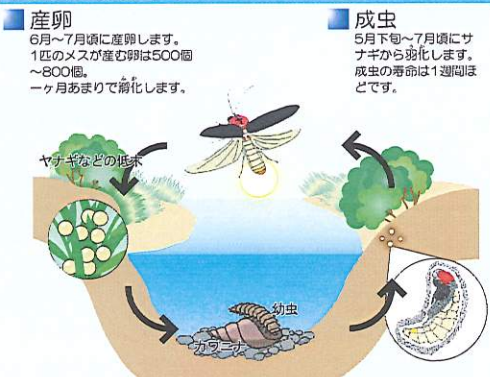
ゲンジボタルのオスとメスのちがい



- ・成虫の胸には黒い十字型のもうがあります。
- ・成虫の体長は約12～18mmとヘイケボタルより大きく、幼虫は約25mmです。
- ・5月下旬～7月頃に羽化して成虫になります。

- ・成虫の胸には黒くて太い縦じまがあります。
- ・成虫の体長は約7～10mmとゲンジボタルより小さく、幼虫は約16mmです。
- ・6月～8月頃に羽化して成虫になります。

## ゲンジボタルの一生



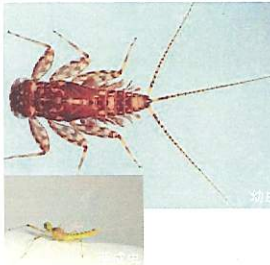
ゲンジボタルのように一生の間に変化させることを「変態」といい、サナギをつくるものを「完全変態」といいます。トンボのようにサナギをつくらぬものは「不完全変態」といいます。

ゲンジボタルのように一生の間に変化させることを「変態」といい、サナギをつくるものを「完全変態」といいます。トンボのようにサナギをつくらぬものは「不完全変態」といいます。

## カゲロウ、トビケラ、カワゲラなどの幼虫

### シロタニガワカゲロウ

【ヒラタカゲロウ科】 全水系  
幼虫は中・下流の石の下に生息しています。カゲロウの仲間では最後に脱皮したときは亜成虫といって羽が曇った状態で飛び立ちます。そしてもう一度脱皮して成虫となり、羽の曇りがなくなります。このような変化は他の昆虫では見られません。



### カミムラカワゲラ

【カワゲラ科】 市川 夢前川 岸田川 矢田川  
竹田川 岸田川 篠保川 加古川  
幼虫は中流から下流の水のきれいな川の石の下にすんでいます。幼虫は頭にM型の模様があります。肉食でカゲロウの幼虫などを捕まえて食べています。晩春から初夏に羽化し、成虫になります。



### ヘビトンボ

【ヘビトンボ科】 全水系 ※洲本川を除く  
幼虫は孫太郎虫ともよばれ、薬として用いられていました。流れの速い瀬をこのみ、河床の石の下に生息しています。幼虫の期間が3～4年と長く、成虫の期間は2週間前後と短い昆虫です。



### ヒゲナガカワトビケラ

【ヒゲナガカワトビケラ科】 全水系 ※明石川、三原川を除く  
幼虫は水のきれいな平瀬の川底に生息しています。川底の小石と小石の間や裏側に口から出した糸で網を張って巣をつくり、その中で生活しています。成虫は頭を下にして木や草にとまります。



## カニの仲間



### サワガニ 全水系

【サワガニ科】  
川で見られるカニとしてはなじみ深いサワガニは上流の水がきれいなところにいます。淡水にすむカニの多くは海に下って産卵しますが、サワガニは淡水域で産卵し、海に下ることはありません。



### モクスガニ 全水系 ※竹田川を除く

【イワガニ科】  
褐色でハサミの部分にやわらかい毛が生えています。モクスガニは敵に襲われると、トカゲの尻尾切のように、足を切り離して逃げます。降雨回避性で産卵は海で行います。



### アシハラガニ Cランク 篠保川 加古川

【イワガニ科】  
甲羅は灰緑色で群れて生息しています。河口から汽水域の範囲にすんでおり、淡水域には生息していません。雑食性で、ヨシの根元付近に巣穴を掘って生息しています。

## 貝の仲間



### カワナ 全水系

【カワナ科】  
冷たい水が安定して流れている砂礫の川底などにすんでいます。ゲンジボタルの幼虫の餌となっており、ゲンジボタルの生息条件とほぼ一致しています。



### カタハガイ Aランク 武庫川

【イシガイ科】  
水路などの小さな流れの砂泥底にすんでいます。カタハガイはタナゴ類が産卵に利用するため、これらの魚を保護するためにも重要な存在です。



### ヒメマルマメタニ Cランク 三原川

【エゾマメタニ科】  
田んぼや田んぼにつながる水路、緩やかな河川などにすんでいます。4～5mm程度の小さな貝です。

# 水辺の陸上昆虫

ここでは卵から成虫まで生涯陸上で過ごす昆虫のうち、水辺でよく見かける昆虫を紹介します。

## 河岸のヤナギ類で見られる昆虫



河岸のヤナギ



**コムラサキ** 岸田川 矢田川 円山川 千種川 夢前川 市川 揖保川 加古川 猪名川  
【タテハチョウ科】

中型のタテハチョウで、オスの羽の表に紫色の金属光沢があります。幼虫はヤナギ類の葉を食べ、成虫はその樹液を吸うため、河川敷のヤナギ林で見られます。成虫は6月～9月頃まで見られます。



**ヤナギハムシ** 加古川  
【ハムシ科】

ヤナギの葉を餌としているため、水辺でよく見かけます。背中の斑紋は変異も多く、形が決まっているわけではありません。死ぬと黄色く変色してしまうため、この鮮やかなオレンジ色は生きている間しか見られません。

## 草原的環境を好む昆虫

草原性の昆虫にとって、都市部を流れる河川の堤防の草地などは残された貴重な生息環境です



**キタテハ** 全水系  
【タテハチョウ科】

明るく開けたところを好むので川の周りで見かけます。幼虫のおもな食草であるカナムグラ（アサ科）は河原など開けた場所に生育しています。



**シルビアシジミ** 丸山川 千種川 揖保川  
【シジミチョウ科】

幼虫のおもな食草であるミヤコグサ（マメ科）は河原など開けた場所に生育しています。しかしミヤコグサのまとまった群落が少ないためか、見られるところは河原や土手など川のこく一部に限られています。



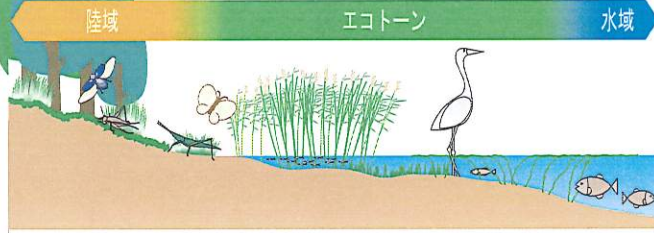
**モンシロチョウ** 全水系  
【シロチョウ科】

明るい開けたところにすみ、市街地や河原などでよくみかけます。幼虫がアブラナ科のダイコンやハクサイなど外来の野菜を好むことから、それらの野菜が日本に伝わったときに、一緒についてきた外来種とされています。

## エコトーン

樹林地と草原、あるいは水際など、異なる環境が接している場所を「エコトーン」(推移帯)といいます。陸上と水中の両方を行き来する動物の種類が豊富な空間となっています。

河川では中・下流部のエコトーンに抽水植物が生育しています。そこでは稚魚やゴなど小さな生きものが多くすんでいます。



**オンバッタ** 全水系  
【オンバッタ科】

河原などで、大きなメスの上に小さなオスが乗っているところをよくみかけるおなじみのバッタです。交尾をしているよりも、ただ乗っていることのほうが多いようです。

# 水辺の両生・は虫・ほ乳類

## 両生類の仲間

**カジカガエル** 丸山川 加古川 揖保川 市川 夢前川 千種川 矢田川 岸田川  
【アオガエル科】

清流にすむ中型のカエルです。森林や草原にすることもありますが。指には大きな吸盤があり、後ろ足には水かきが発達、溪流に適應しています。フィーフィー...と美しい鳴声ですが、近年減少傾向にあります。



**モリアオガエル** 岸田川 丸山川 揖保川 加古川 夢前川 猪名川  
【アオガエル科】

太い指先に大きな吸盤があるのが特徴で、「泡の巣」をつくるカエルとして知られています。森林で樹上生活をし繁殖期の間だけ水中に入ります。



**イモリ** 注目種 全水系 ※明石川、三原川を除く  
【イモリ科】

頭部がへん平で体の表面は粒状の突起でおおわれています。平地から山地にかけて水のきれいな池、水田、または緩やかな流れに生息し、ミミズ、水生昆虫、オタマジャクシなどを捕食します。

## 特別天然記念物 オオサンショウウオ



丸山川 武庫川 市川 夢前川

兵庫県にはオオサンショウウオのほか、5種のサンショウウオが分布していることが明らかになっています。このうち最大のものがオオサンショウウオです。オオサンショウウオは最大1.5mにも達する世界最大の両生類で、水中で生活しています。日本固有種で上流の清流に生息し、鼻先で動く生物は何でも丸呑みにしようとします。生きた化石とも呼ばれ、国の特別天然記念物に指定されています。

### オオサンショウウオをみつけたら！

特別天然記念物をつかまえてはいけません。ケガをしているなど、保護が必要な場合は、教育委員会に連絡しましょう。

## は虫類の仲間



**シマヘビ** 全水系  
【シマヘビ科】

茶色の体に黒い4本の縦じまがあるのが普通ですが、まれに黒いものもいるようです。河川敷の草むらや水田などにいます。気性の荒いヘビで興奮すると尾を激しく振りますが、毒はありません。



**イシガメ** 全水系 ※岸田川、矢田川を除く  
【イシガメ科】

日本固有種でクサガメや外来種のアカミミガメと違い、首にははっきりした模様がなく、ぼっそりしています。春や秋には陸にあがり、日光浴をしています。

## ほ乳類の仲間



**カヤネズミ** ネズミ科  
カヤネズミの巣

初夏から晩秋にかけて草の茎に丸い巣をつくっています。冬は地表の堆積物や地下に穴を掘って過ごします。全長約6cmとネズミ科の中では最小の種になります。

## 外来種のヌートリア

ヌートリアはネコほどの大きさの巨大ネズミです。淡路島や矢田川、岸田川、六甲山系南面の川以外で県下に広く分布しています。

ヌートリアは1930年代に南米から輸入されました。水生哺乳類であるため、寒さに強い毛皮をもち、軍隊の防寒服に用いられていました。終戦後需要が無くなったヌートリアは捨てられ、野生化したものが各地に広がりました。農作物を荒らす他、土手や堤防に長いトンネルの巣を作るため、堤防が弱くなるなどの問題が発生しています。



# 水辺に育つ植物

## 上流の植物



**ジンジソウ** 岸田川  
 【ユキノシタ科】  
 溪流沿いに生え、9～11月頃に白い花を咲かせます。5枚ある花びらのうち、下の2枚が大きく「人」の字に似ていることからこの名があります。



**ネコヤナギ** 岸田川 白山川 竹田川 千種川 揖保川 武蔵川 夢前川 市川 加古川 徳名川  
 【ヤナギ科】  
 溪流など、流れの急な水辺の低木で、春に白いふさふさしたネコの尻尾のような花をつけます。



**セキショウ** 全水系 ※千種川を除く  
 【サトイモ科】  
 木陰の小さな流れに沿って群生します。鏡筒剤、鎮静剤、胃薬として用いられることがあります。岩場には生える喜蔀に似た植物ということから「石喜」の名があります。

## 中流の植物



**ススキ** 全水系  
 【イネ科】  
 お月見などでなじみの深いススキは、一般的に日当たりの良い、乾いた場所に生育します。根元から分岐して大きな株をつくります。



**オギ** 全水系  
 【イネ科】  
 ススキに似ていますが、1本ずつ茎を立てて成長し、竹のような節があります。オギは湿地に生育します。



**ツルヨシ** 全水系  
 【イネ科】  
 流れの緩やかな、砂や小石の河原に生息します。「ランナー」という地上を這う茎を出します。



**カワラヨモギ** 千種川 加古川 武蔵川 武庫川  
 【キク科】  
 地下茎で増殖するので群生していることが多く、茎の長さは30～100cmで、多く分岐します。9～10月に多数の花をつけます。



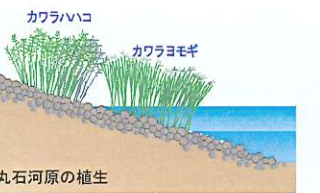
**カワライハコ** 岡山川 内山川  
 【キク科】  
 河原の砂地に群生する高さ約40cmの多年草です。茎や葉の裏、花は白い綿毛に包まれ、全体的に白く見えます。



**カワラサイコ** 千種川  
 【バラ科】  
 茎の下部は地面を這い、先が斜めに起き上がって花をつけます。

## 河原の植物

河川の中流から下流には、一般的に広い河原が発達しています。河原を注意して見ると、よくに水につかる部分と、めったに水につかれない部分に分けることができます。頻りに水につかり、土砂が移動（かく乱という）した丸石河原には、乾燥に強い植物が優占します。



## 清流の花畑

**バイカモ** Bランク 加古川 岸田川

【キンボウゲ科】  
 バイカモは、清らかで豊富な流れの中に生育する水生植物で、清流の指標とされています。春から秋にかけて美しい白い花を咲かせます。花期が長く、ときには冬でも見られます。花が梅の花（ばいか）に似ていることから梅花藻「バイカモ」と呼ばれています。日本固有の種で、冷水を好むため本州西南部では川の上流や湧水のある水域が生育地にほぼ限られています。近年、水質汚濁や川の改修によりバイカモは急激に減少する傾向がみられます。岸田川支川の田君川は河口からわずか4kmの下流にもかかわらず、低温の湧水があるためにバイカモが生育する、国内でも珍しい所です。



バイカモ

## 下流の植物



**ヨシ** 全水系  
 【イネ科】  
 アシ、キタヨシともいい、日本各地の池や川の下流から河口付近で見ることが出来ます。長い地下茎で繁茂し、高さ1～3mに成長します。



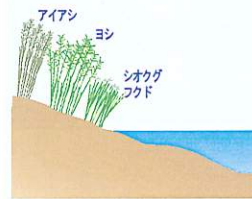
**ミクリ** Bランク 岸田川 市川 加古川 揖保川  
 【ミクリ科】  
 浅い水中に群生し、70～80cmに成長します。夏に白い小さな花を咲かせ、その後、イガクリのような実をつけることから実粟（みくり）と呼ばれています。



**タコノアシ** Bランク 矢田川 千種川 明石川 内山川  
 【ユキノシタ科】  
 水田や、耕作を休んでいる田、沼、河川敷のヨシ原などの泥湿地に生育します。秋には全身が紅葉するため、まさに「ユデダコ」状態です。

## 塩性植物

潮の満ち引きや、塩分を含んだ海の波の影響をうける厳しい環境でも育つ植物です。



**シオクグ** 揖保川  
 【カヤツリグサ科】  
 河口干潟の塩性湿地に群落で生育します。カニなどの動物の生息場所や避難場所になっている事が多く、汽水域にとって貴重な植物です。



**アイアシ** Cランク 千種川 揖保川  
 【イネ科】  
 河口干潟の塩性湿地に群落で生育します。波浪から砂浜の洗掘を防ぐため、鳥類や海辺の動物の避難場所になっている事が多く、汽水域にとって貴重な植物です。



**フクド** Bランク 揖保川  
 【キク科】  
 アイアシよりもさらに海際に群生します。葉はメロンのような香りがします。

## コリヤナギ

ヤナギの仲間にはツルヨシと共に「先駆植物」とよばれ、かく乱がおきると河原や岸辺にはやく生育します。内山川には、コリヤナギというヤナギが中流から下流の水辺でよくみられます。このヤナギは朝鮮半島からの外来種で、他の河川にはあまりみられません。内山川流域の豊岡盆地では、コリヤナギの枝を使って柳行季をつくる産業が栄えました。柳行季は数十年前くらいまではこの家庭にもあり、旅をするときは柳行季に生活用品を入れて旅行かばんのように持ち歩いていました。奈良・正倉院の宝物の中にもあり、昔から柳行季が使われていたことがわかります。今では柳行季はほとんど使われなくなりましたが、豊岡地方ではカバンが地場産業の一つになっています。地場産業の歴史は形を変えながらも続いています。



コリヤナギ 【ヤナギ科】 内山川

# 生きものたちの変化

## 絶滅危惧種

ここでは「河川水辺の国勢調査」において確認された「兵庫県レッドデータブック」に掲載されている希少かつ貴重な種を紹介いたします。県内にはわずしかか生息・自生していない生きものから、もし見つけても採集しないで観察するように心がけましょう。

### 魚類



**イトヨ** Aランク  
【トゲウオ科】  
イトヨはトゲウオの中間で、背びれのトゲが特徴です。肉食性で、水のきれいな小さな流れに生息します。  
「河川水辺の国勢調査」では確認されませんでしたが生息が加古川で確認情報があります。



**ドジョウ** Bランク  
【ドジョウ科】  
ドジョウは泥底に生息し、水田などで見られます。冬は泥底に潜って冬眠しています。絶滅の危険が増大しており、生息環境の保全が必要な貴重種として選定されています。

### 貝類



**トンガリササノハガイ** Aランク 武庫川  
【イシガイ科】  
下流や、水路などの流れの緩やかな所に生息していますが、こうした環境は開発により失われたところが多く、個体数が激減しています。

### 昆虫類



**ゲンゴロウ** Aランク  
【ゲンゴロウ科】  
浅くて水生植物がよく生えた水辺に生息しています。近年、農薬や水質汚濁によって、その数が著しく減少しています。「河川水辺の国勢調査」では確認されませんでしたが生息が加古川で確認情報があります。



**ゲンバイトンボ**  
【モノサシトンボ科】  
Bランク 千種川 揖保川 市川  
加古川 武庫川 猪名川  
オスの足が相撲の行司が持つ筆配のような形をしていることからこの名前があります。緩やかな流れに生えた植物にとまって小さな昆虫をたべます。

### 植物



**ヌマゼリ** Aランク 武庫川  
【ゼリ科】  
湿地や田んぼのあぜに生育します。夏に白い花を咲かせます。ヨシなど他の植物に追いやられて、生育地が減少しています。

### 両生類



**ダルマガエル** Aランク 武庫川  
【アカガエル科】  
日本固有種でトノサマガエルに似ていますが胸が太く後ろ足が短くなっています。主な生息場所である田んぼの減少や、トノサマガエルとの交雑が進み、数が減少しています。

### 鳥類



**ヨシゴイ** Aランク 加古川  
【サギ科】  
日本で見られるサギの仲間では体長約35cmと最小のサギで、ヨシ原など水生植物の中に営巣します。かつては水田地帯などもみられましたが生息が近年著しく減少しています。



**ミサゴ** Aランク 矢田川 竹田川  
【タカ科】千種川 揖保川 夢前川  
加古川 明石川 武庫川  
三原川 洲本川  
名前の由来が「水凧り」からきているといわれているように、水面近くの魚を狙っています。森林の減少や営巣木の伐採により数が減少しています。

## 外来種・移入種

「外来種」とは、もともと日本にはいなかった生きもので、人間の手によって外部から持ち込まれ、野生化したものです。外来種が増えることによって、もともと日本にいる生物が捕食され、あるいはすみかが奪われたりして滅びてしまうといった問題が起こっています。外来種は生物の多様性を保全する上で最も大きな脅威と捉えられています。兵庫県では動物33種、昆虫75種、植物272種以上が確認されています。

一方、「移入種」とは、国内産ですが本来住んでいない地域に持ち込まれた生きものです。例としては各地で見られるゲンゴロウブナ、ビロヒガイ（原産地は琵琶湖）が挙げられます。

いずれも人間が持ち込んだ結果ですが、影響が大きくなるように、これからどうしていくべきか考える必要があります。ここでは、「侵略的外来種」と呼ばれる特に影響の大きい代表的な生きもの6例と、近年急速に分布を広げている昆虫を紹介いたします。

### 魚類 (侵略的外来種)



**オオクチバス** 全水系  
【ブラックバス】 ※矢田川、岸田川を除く  
【サンフィッシュ科】  
北アメリカ原産の外来種です。兵庫県では主な河川の他、ダムやため池でも見つかっています。肉食で口に入る動物ならなんでも食べてしまいます。このため、希少な生きものが絶滅したり、数が減少するなどの危険性があります。



**ブルーギル** 全水系  
【サンフィッシュ科】 ※矢田川、岸田川を除く  
北アメリカ原産の外来種です。魚の卵や稚魚を好んで食べます。オオクチバス（ブラックバス）と同様に、希少な生きものが絶滅したり、数が減少するなどの危険性があります。

### は虫類 (侵略的外来種)



**ミシシippアカミミガメ**  
【イシガメ科】 丹山川 竹田川 揖保川  
夢前川 加古川 明石川  
武庫川 猪名川 洲本川  
北アメリカ原産で「ミドリガメ」の名称で輸入され、ペットとして飼われていたものが捨てられて野生化しています。在来種のカメの生息を脅かしています。

### 甲殻類 (侵略的外来種)



**アメリカザリガニ** 全水系  
【ザリガニ科】  
北アメリカ原産の外来種です。ペットや食用として幾度も日本に持ち込まれ、広く野生化しています。親しみのある生きものひとつとなっていますが、田んぼのイネや水草、他の生物への被害などが問題となっています。

### 植物 (侵略的外来種)



**アレチウリ** 全水系  
【ウリ科】 ※矢田川を除く  
北アメリカ原産の植物ですが、1952年に国内で確認されて以来、各地に生息地を拡大しつつあります。近年、全国の河川などで大繁殖し、河川敷や堤防にマント状におおいかばさり他の植物の生育を阻害するため、生物の多様性に大きな障害となっています。



**セイタカアワダチソウ**  
【キク科】 全水系  
北アメリカ原産の外来種です。明治末期に観賞用に国内に持ち込まれたといわれています。繁殖力が旺盛で、しかも根から植物の発芽を抑える物質を分泌し、周りの他の植物を駆逐してしまいます。

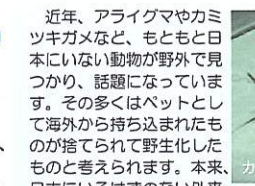
### 昆虫類



**ブタクサハムシ**  
【ハムシ科】 竹田川 揖保川 夢前川  
明石川  
北アメリカ原産の昆虫で、1996年に関東地方で初めて発見されてから、1998年には兵庫県でも発見されるなど、急速に分布を広げています。幼虫、成虫はともにブタクサ、

オオブタクサ、オオオナモミなどの葉を食べます。これらの植物は北アメリカ原産のキク科の外来植物で河原にも侵入しています。ブタクサハムシは外来植物を食べる外来昆虫です。

### 外来種をはなさないで!



近年、アライグマやカミツキガメなど、もともと日本にいない動物が野外で見つかり、話題になっています。その多くはペットとして海外から持ち込まれたものが捨てられて野生化したものと考えられます。本来、日本にはいない外来種は在来種を駆逐してしまい、生態系を乱す恐れがあるほか、凶暴な性質のものもあり、極めて危険です。ペットは飼いが最後まで責任を持ちましょう!

# 生きものからみたひょうごの川

## 「河川水辺の国勢調査より」



### 岸田川

【流域面積:201km<sup>2</sup> 河川延長:24km 水源:扇ノ山 河口:日本海】

上流ではヤマメ、タカハヤなどが確認されています。下流では回遊魚のカマキリが確認されていますが、近年、減少傾向にあります。またほかの川では激減しているニッポンバラタナゴ、イトヨなどの生息がこれまでに報告されています。支川、田君川にはハイカモの群生地があります。県下で最も急流な川の一つで豊かな自然が残されています。



### 矢田川

【流域面積:276km<sup>2</sup> 河川延長:35km 水源:赤倉山 河口:日本海】

上流でイワナ、ヤマメ、タカハヤ、アマゴなどが確認されています。下流ではカマキリ、ドジョウが見られます。全域でウグイやカワムツが豊富です。カジカエル、モリアオガエルが確認され、生きた化石といわれるムカシトンボの幼虫が見つかるなど、優れた自然環境であることがうかがえます。



### 千種川

【流域面積:754km<sup>2</sup> 河川延長:72km 水源:三堂山 河口:瀬戸内海】

県下きっての清流で、上流ではアカザやアマゴが確認されています。中流ではオヤニラミが確認されています。本川につながる用水路ではドジョウやアンジボタル、ゲンハイトンボ、カワセミなどが確認されています。下流ではヤリタナゴが確認されています。また中洲で希少植物のタコノアシが見つかり、豊かな生物相がうかがえます。



### 揖保川

【流域面積:810km<sup>2</sup> 河川延長:70km 水源:霧無山 河口:瀬戸内海】

上流ではアマゴ、タカハヤ、支川の水生植物の周辺ではオヤニラミが確認されています。上・中流にはイワツバメが渡ってきて集団で営巣しています。中流の河原にはカワラサイコやカワラハハコがみられます。川筋にはトビケラやカゲロウの仲間が多く確認されています。河口の干潟ではアイアシなどの汽水性の植物が見られます。龍野市には眺望に配慮して設けられた、めずらしい壘堤がいまも残されています。



### 夢前川

【流域面積:200km<sup>2</sup> 河川延長:40km 水源:雲彦山 河口:瀬戸内海】

上流ではアカザ、タカハヤ、オヤニラミなどが確認されています。またカワガラス、カワセミなどの他、橋の桁などにイワツバメの集団営巣が確認されています。中流ではカワヨシノボリ、カマツカなどが確認されています。水辺にはツルヨシがよく繁茂しています。下流ではウナギやメダカが確認されています。全川でオイカワやカワムツが豊富です。



### 市川

【流域面積:500km<sup>2</sup> 河川延長:78km 水源:三国岳 河口:瀬戸内海】

上流ではアマゴやアカザが確認されています。中流ではオヤニラミ、オイカワ、カワヨシノボリが確認されています。下流のワンドではイチモンジタナゴ、カワヒガイが確認されています。中上流ではセキショウの群集がみられ、水辺のツルヨシ付近にはゲンハイトンボなどが見つかりました。



### 三原川

【流域面積:24km<sup>2</sup> 河川延長:11km 水源:鶴鶴羽山 河口:瀬戸内海】

上流では清流を好むカワヨシノボリが確認されています。下流では汚濁が進んだ川で見られるミスズシやユスリカが多く確認されています。また河原には調査した県内の川ではここだけでみられるダンチク(ヨシタケ)群落が点在し、サザなどの鳥や底生生物のすみかとなっています。三原川は瀬戸内側を西に流れる小川で、中下流には田園が広がっています。

各河川には、「河川水辺の国勢調査」にもとづいてまとめたパンフレットがあります。パンフレットは各土木事務所Webからも閲覧できます。

### 円山川

【流域面積:1,300km<sup>2</sup> 河川延長:67km 水源:円山 河口:日本海】

上流ではオオサンショウウオが確認されました。中流から河口の流れは非常に緩やかで汽水域が河口から10km以上に達し、その間では海水魚のスズキやボラなどが確認されています。下流は低湿地帯で、近畿でも最大級のヨシ原が広がるオオヨシキリなどのすみかとなっているほか、塩生植物のシオクグが確認されています。秋にはヨシ原の一部でツバメが渡り前に集団ねぐらを形成します。河畔に点在するヤナギ林や河原のマダケ林をカワラヒワ等がすみかとしています。全川通じてカワムツが豊富に、各地でゲンシボタルが確認されています。円山川はこれまで特別天然記念物のコウノトリ等の多様な生きもの生息を支えてきました。



### 竹田川

【流域面積:168km<sup>2</sup> 河川延長:25km 水源:野瀬峠 河口:由良川】

上流の流れは緩やかで、両岸に護岸が整備された区間でも水際にはツルヨシやヨシ、オギが繁茂し、その中にオオヨシキリが、河原にはイカルチドリがすみかです。水中にはメダカ、タカハヤがすみかです。中下流部ではオイカワやアブラボテが確認されています。またユスリカが多く確認され、水質の悪化がうかがえます。竹田川は日本海に流れ込む由良川水系の一支川で、水上回廊の一部になっています。(P7…水上回廊 参照)



### かこ川

【流域面積:1,730km<sup>2</sup> 河川延長:87km 水源:粟鹿山 河口:瀬戸内海】

上流では広い平野がありますがアマゴ、タカハヤが確認されています。中流では大型のコイやナマスが確認されています。また低山地のゆるやかな清流を好むアオハダトンボの生息が確認されました。下流から河口にはワンドや中洲が形成され、その周辺にはヨシ原やヤナギ林が繁っています。この間の汽水域では海水魚のスズキ、ボラなどが確認されています。かこ川は県下で最大の流域面積を誇り、下流にはとても豊かな自然環境を有しています。由良川水系竹田川とは日本一低い分水界(標高95m)で接しており、水上回廊の一部になっています。(P7…水上回廊 参照)



### 猪名川

【流域面積:383km<sup>2</sup> 河川延長:39km 水源:大野山 河口:瀬戸内海】

上流ではアカザが確認されています。中下流にはオイカワ、カワムツが豊富です。中流にはツルヨシ、下流にはヨシやオギが野生しています。下流の河川敷では市街地の中でも多様な植生が見られますが、近年、外来種のアレチウリの分布が拡大しています。(P24…外来種 参照) 下流は阪神間の市街地を流れており、河原は市街地の貴重な単原的環境となっています。



### 武庫川

【流域面積:500km<sup>2</sup> 河川延長:66km 水源:篠山平野 河口:瀬戸内海】

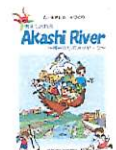
上流は流れが緩やかでカネヒラやアブラボテなどタナゴ類、トンガリササノハガイなどイシガイの仲間が確認されています。中流の渓谷ではコウライニゴイ、ギギなどが確認されています。また他の川では上流でよく見られるカワガラスが確認されています。下流ではオイカワ、ギンブナなどが確認されています。河口付近名の汽水域にはボラやマハゼなどがいます。武庫川は中流に渓谷を形成する特徴を持っています。(P8…武庫川の先行河 参照)



### 明石川

【流域面積:127km<sup>2</sup> 河川延長:21km 水源:神戸市北区北五葉 河口:瀬戸内海】

中流から上流ではオイカワ、フナ、コイ、カマツカなどが確認されています。下流にはオイカワ、メダカなどが、また河口付近の汽水域にはボラがいます。全体にオイカワが豊富であり、底生生物もミスズシやアメリカザリガニなど汚濁に強い種類が多くなっています。明石川では護岸が施された区間が大部分を占めています。水際はヨシなどの植生で覆われ、泥湿地では希少なタコノアシも見つかりました。草地ではカヤネズミが確認されました。河畔にはサギの仲間が集団で営巣しています。



### 洲本川

【流域面積:87km<sup>2</sup> 河川延長:8km 水源:兜布丸山 河口:瀬戸内海】

上流ではカワムツ、下流ではメダカ、ギンブナなどが確認されました。下流にはミノソバ、ツルヨシ群落などが豊富です。またコオニヤンマ、ハグロトンボが確認されました。河口の干潟にはサギ類の集団や、淡路島の鳥シロドリなどがみられます。カワセミやゲンシボタル(幼虫)が確認されていることから、良好な自然環境が残されていると思われる。



# 生きもの探索ガイド

## 水の中を探す

### 魚類

探す場所	見つけるコツ
水中	水中メガネや箱メガネで
水際の植物の間	水の中を見る
や石のすき間	タモ網で探す

※無断で魚をとることが禁止されている川もあります

### 底生動物

小石の裏やすき間	箱メガネで水中を見る
水際の植物の間	網目の小さいタモ網で
や砂の中や落葉	探す



水辺の学習

## 水の外を探す

### 植物

探す場所	見つけるコツ
流れの緩やかな水際	河原や土手の植物の種類をよく見分ける
河原や土手	
湿地	

※植物は生える場所の条件によって種類が変わります。その場所の水のつかり方に注意しましょう。P21~P22参照

### 鳥類

広い水面をもつ川	耳をすまして鳴声を聞く
水際の低木や高木	木の枝や河原で動くものに注意する
空	

※動物が逃げってしまうので、大声や物音を出さないこと。

### 小動物

探す場所	見つけるコツ
水際	砂地などで足跡を
川の周りの田畑	探す
水たまり	足跡の周辺を探す
河原の草地	耳をすまして鳴声を聞く

### 陸上昆虫

河原の草地	草花の周辺を探す
川のまわりの田畑	耳をすまして鳴声を聞く
	捕虫あみで草むら
	をすくう
	石を動かしてその下を見る

## 水生生物でわかる水質などの水環境

川の中には、さまざまな生きものがすんでいます。川にすんでいる生きものを調べることで、その地点の水質を知ることが出来ます。川の中にはどのような生きものがいるのが調べてみましょう。

### 水生生物が生息できる水質



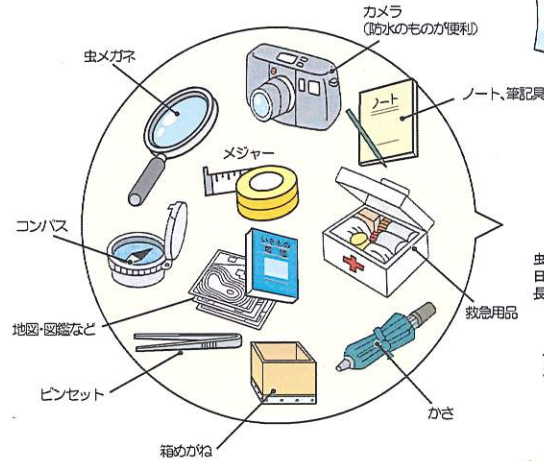
### 人とのふれあいランク

顔を川の水につけやすい	川の中に入って遊びやすい	川の中に入るのは出来ないが、近づくことができる	川の水に魅力が無く、川に近づきにくい
きれいな水			大変汚れた水

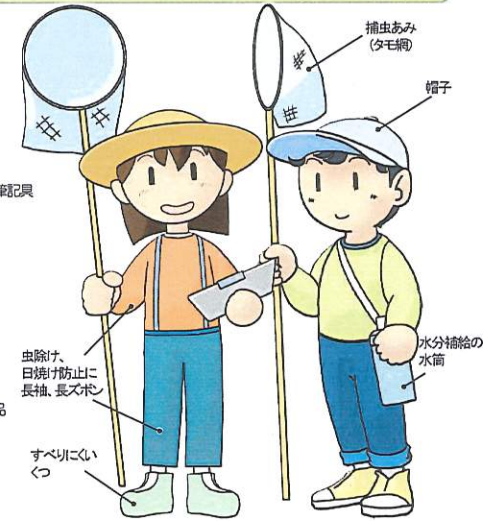
## 観察結果を記録しよう

- 日時を記録しましょう。
- 観察している場所は上流？中流？下流？
- 流れの様子はどんな具合ですか？
- 石はどんな形をしていますか？
- 川にはどんな生きものすんでいますか？
- そのほか、発見したことを記録しましょう。

## 川に行くときに準備するもの



※グループで行く時は、持ちものを分担しましょう。



## 観察時の注意

- 川に一人で行ってはいけません。
- 行先を家族に伝えておきましょう。
- 川の水量や水深に注意しましょう。増水していれば中止しましょう。
- 暑い日には帽子を被り、日射病に注意しましょう。また、水分補給をしましょう。
- 深いところや、流れの速いところに入ってはいけません。
- 河底や石の上は滑りやすいので気をつけましょう。
- 毒のある動植物に注意しましょう。
- ダムの放流の注意サイレンが聞こえたらすぐに高いところに避難しましょう。
- 夕立が降ったら中止しましょう。急に増水することがあり、危険です。



## 観察を終わる時

- ゴミは必ず持ち帰らしましょう。
- 観察のため石を動かしたらもとの場所に戻しましょう。

## 観察が終わってから

- 観察記録をまとめましょう。
- まとめた結果をお友だちに発表しましょう。

## ツキノワグマに注意!

兵庫県ではツキノワグマは県西部の中国山地に生息しています。近年は各地で出没し、人身事故も発生しています。クマは耳が良く、通常、人間がクマを見つけるよりも先に、こちらの存在を察知してその場から遠ざかります。クマに出会わないために複数人で話をしながら、あるいは音の鳴るものを携帯することを心掛けましょう。それでも出会ってしまった場合はクマの動きを見ながら、ゆっくりと後ずさりして立ち去るようにして下さい。刺激しないように注意しましょう。驚いたクマは自己防衛のために襲ってくる場合があります。